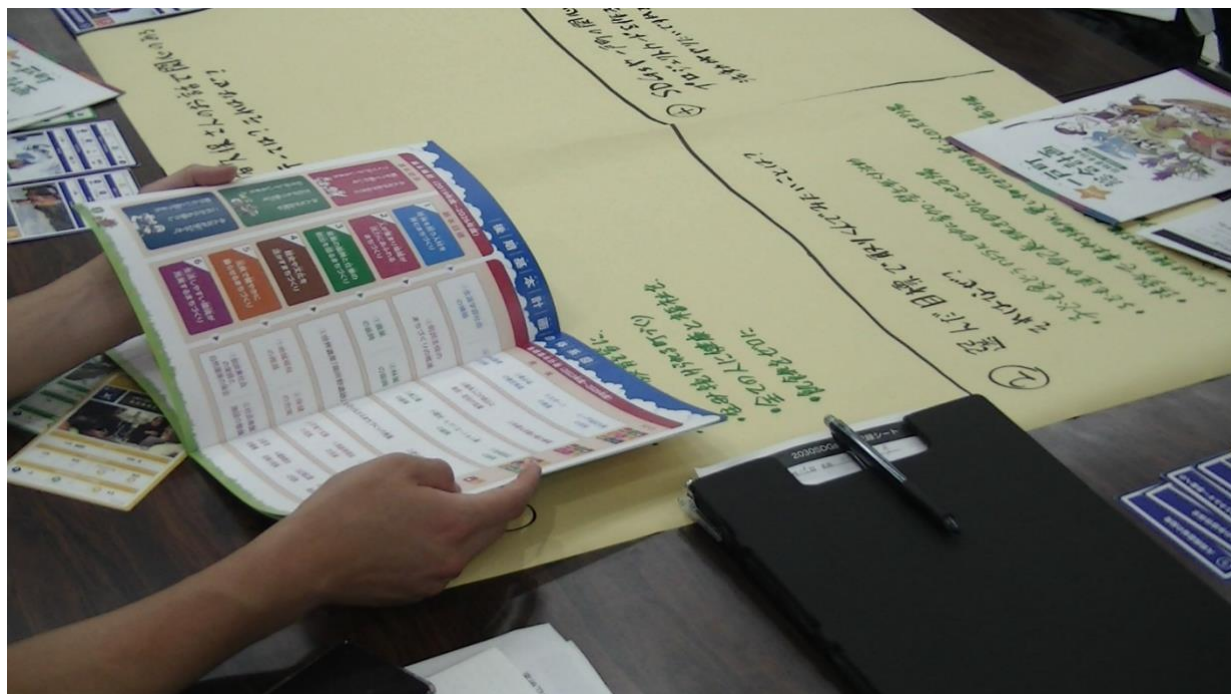


いちのへ SDGs mirai カフェ Vol.1

～SDGs を楽しく学んで一戸町の「いま」を知ろう～



開催日時：令和5年7月15日（土）13:00～16:30

会場：一戸地区センター2階 大会議室

主催：一戸町

町への期待や想い、一戸の未来について気軽に意見交換し、どんな町に暮らしたいか、やりたいことは何かを話し合うタウンミーティング「いちのへ SDGs mirai カフェ」の第1回が7月15日に開催されました。参加者は一戸町民、高校生、大学生など21人。2030SDGsカードゲームでSDGsの本質を体験から学び、一戸町総合計画町民アンケート調査結果やカードゲーム体験から、参加者それぞれが取り組んでみたいことなどを話し合いました。

2030SDGs カードゲーム

2030年の人生のゴールと世界のゴールを達成できるかをシミュレーションするゲーム「2030SDGs」で、自分たちの事業や活動、日々の暮らしがどのように世界と繋がっているのかを体験的に学びました。また、地球を、未来を持続可能にするために大事な「経済・環境・社会」という3つの要素が調和したバランスの取れた世界を参加者全員で目指しました。

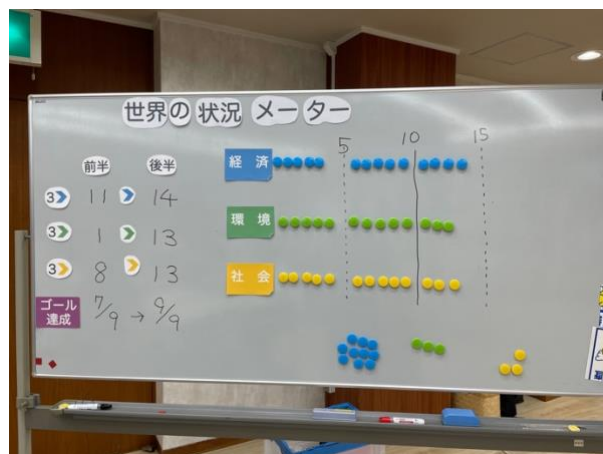


ゲーム終了後は、体験を振り返り、行動が変わるきっかけや気づいたことについて、グループで話し合いました。

また、世界の状況メーターの「世界」を「一戸町」に置き換え、町の状況として振り返ってみました。状況メーターの数値がゼロに近い時はどんなことが起きているか、そしてそこから何ができるかをみんなで考える機会となりました。

<参加者の感想>

- ・自分の近くの課題、SDGs は繋がっている。価値観の違いを認めない（という態度）が改善される気がした。
- ・カードゲームでトレードオフを知った。
- ・みんなと話すことが大事。
- ・状況が可視化されると動ける。
- ・この規模（人数）でも情報が不足して何をしているかわからない。もっと情報発信が必要だと思った。



町の現状への満足度と課題について



一戸町から、令和4年度に実施された「一戸町総合計画町民アンケート調査結果」を基に、町の現状への満足度と課題について説明。

不満足分野のトップ3は「商工観光業」「移住・定住」「地域コミュニティ」、重要度分野のトップ3は「医療・健康・福祉」「子育て支援」「教育」という結果となりました。



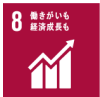



町の担当者からは、「地球にやさしく、人にやさしい、長く住み続けられるまちを実現するために、皆さんが暮らし・働き・訪れて、気になる分野や具体的な課題について、カフェの学びや提供された情報を基に話し合ってもらいたい」と話がありました。



対話の時間

カードゲームの体験や一戸の状況をもとに、グループごとに話し合いを行いました。

話し合いのあとはグループごとにどんな話が出ていたかをグループのメンバーを入れ替えて共有し、最後はカフェに参加した感想を話しました。

問1：SDGsの17の目標のうち、どのゴールを大事にしたいですか？また、それはなぜですか？

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>社会基盤に結びつけることで豊かな社会へ 貧困と教育はSDGsの取り組みの初歩に！ 先生になりたい。誰もが教育を受けられる環境、生徒一人ひとりに合った教育。 教科にとらわれない、その土地にあった教育</p>
 <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	<p>ひとり暮らしを初めて大切さに気づき始めた。自分のことにもなるし、世界のためにもなる</p>
 <p>8 働きがいも 経済成長も</p>	<p>経済（ゆとり金）があって達成に結びつけられる</p>
 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>対等な立場で協力し合うこと</p>
 <p>11 住み続けられる まちづくりを</p>	<p>一戸町を意識して</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>身の回りのことから徐々に社会に目を向けていきたい</p>

	身近に感じるから
	会話は大事 目標達成のためにはこれが大事

問 2 : 選んだ目標で取り組んでみたいことは？

- ・節電/家庭のエコチェック→支出も減らせる、プラスエコ
- ・小さな町に行って、中高生と触れ合う、活動する
- ・学習支援を継続的にやっていく
- ・ゴミ出し、生ごみ出さない。全部食べ切るスタイルをしている。生協で引き取ってもらっている。
- ・キャベツの葉にバクテリアを入れて処理している。
- ・小さな会話を大事にする。
- ・心に余白を持つ
- ・子ども食堂のように自由に参加、壁をなくす活動
- ・子供達が自己表現を自由にできる場
- ・誘致で集まれる場所、買い物できる場所を。若い人のたまり場
- ・子供を預けられる場、母親が信頼できる場
- ・フードロスをなくすために、賞味期限切れの食品等売る場
- ・再生可能エネルギー。一戸だからいけるのでは？
- ・環境に配慮した買い物 ESG 投資をしている銀行
- ・教育の仕事を頑張る。
- ・プラスチックを使わない生活
- ・知り合って、達成に向かっていく！

問 3 : 「町の現状への満足度と課題について」で関心のあるテーマは？

- ・不満足分野と重要度分野で課題が一致していないこと
- ・自分たちができること 一戸町の「里山」を使ったもの
- ・不満足分野の地域コミュニティ 若者のたまり場 子供たち企画のイベントがあると、大人も助けてくれる。
- ・町づくり 郷土芸能 文化を守ること 小中学校から習える
- ・スポーツの推進
- ・高校生が参加しやすいイベントって？
- ・一戸、二戸は服を作っている業者がある（古着）
- ・ものを買える場所が少ない。（飲食店）商工観光業
- ・商店街がシャッター街。マック、スタバ 友達と行く場所がほしい。ないものを自分で作る
- ・ユースセンターなどのサードプレイス
- ・居場所
利用者登録して使える、ポイントでジュース交換、中高生の居場所、
オシャレで世代に応じた場所、子供にやさしくない、テーブル、イス 用途色々、市と委託事業者
- ・移住・定住 外からの人を求めている。

- ・地域コミュニティとつながってくる
- ・移住・定住（何かできる可能性を感じる！）移住者として見えるものがある。
- ・大人がいきいき→子供もいきいき
- ・大人の変容が大事
- ・長期的な目線が大事

問4：SDGsや一戸町で関心のあるテーマで、どんな活動がやりたいでしょうか？

- ・複合（食・教育・遊び）施設＝紫波オガールのような
食：スタバ、マック、マルシェ（一戸ブランド）
教育：大学、図書、託児所
遊び：ラウンドワン、スポッチャ
- ・若者の集いの場（ゴール 11、12、17）
- ・古着の売買、フードロス（家であまっているものを持ち寄る）
- ・里山を活かした町づくり
- ・中高生のサードプレイス 町と協力して。マックとかではなく、用途自由で。カフェテリアとかあったら。アクションも起こせる。
- ・チャレンジショップ



チェックアウト（感想の共有）

- ・SDGsを通じて、一戸町を身近に感じた。
- ・若者、高齢者、お互い（一緒）に考えることが大事
- ・SDGsを身近に感じた。
- ・SDGs、一戸町、どう繋げる？
- ・それぞれの価値観、ニーズを満たせる
- ・カタチにしていきたい
- ・ドキドキワクワク完成させたい。
- ・一戸町の良いところを見つめてスタートしたら？



- 視点の違う意見を聴けてよかった。
- 楽しかった。
- 1人より、皆んなで話し合った方がいい意見が出てくる。
- 一戸ブランド、マルシェ、集う場所、目的がなくても集える場所
- 町内の方、高校生に来てもらいたい。どうやったら関心をもってもらえる？
- むずかしいことより近いところから。気さくに参加できる場
- 違う視点からの質問で気づきがあった。
- 商工観光・・・町だけでできないなら町民と。機会の提供を。
- それが無理ならどうする？一戸しかないものに。
- 状況が可視化されると動ける。この規模感だからこそ。
- 集まる場所＝ワクワク感。
- 他に与える影響があるかも考える。
- 私は誰と、何を戦っているのか？（このゲームは競争ではないかも）

